



緑の木立にかこまれ、川のせせらぎを聞いていると、おだやかな心地になるのはなぜでしょう。私たちの先輩、縄文人が頬に感じていた爽やかな風を今も感じるからです。里山は自然の恵みに感謝し、人々が豊かにくらす日本人のこころのふるさとです。それは過去の遺産ではなく、めざすべき懐かしい未来ではないかと小湊鐵道は考えています。

“SATOYAMA” is half nature and half people, in this area life is very close to nature, or it might even be at one with it.*

*「The Japan Times」culture-art「All aboard the art train to Ichihara」by James Jack 2014.4.16より引用
取材記事の一部、小湊鐵道社長石川晋平の談話を英訳。

SATOYAMAへ 初恋をさがしに。

SATOYAMAトロッコ列車が緑のミュージアムをご案内します。  **小湊鐵道**